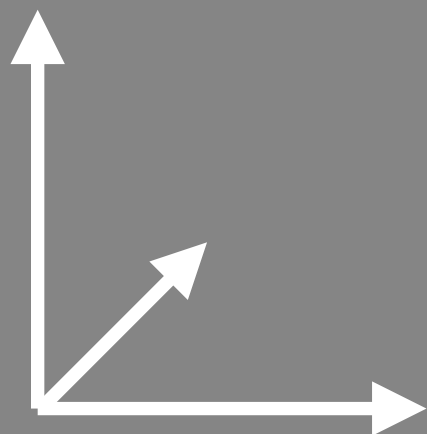


運命を変える
人生創造の書(2)
『トレイル』



TRAIL

修道編



道は学問修養で
人徳を高めれば
自ずと開ける

この世には、お金では買えないものが沢山あります。

- ・どんな人間でありたいか？
- ・どんな人生にしたいか？
- ・どんな世界に住んでいたいか？

これらの理想を追求していけば、それが単なる経済的成功や、権力による支配などでは、到底買うことのできないものだとすぐに分かるはずです。

一度限りの人生で、あなたが作る物語、触れる人の心。

その、いつか消えてしまう味わいが、わびさびを感じさせてくれます。

「人生の味を知る」ということ。

これが、人に与えられた最大の道かもしれません。

人の道を歩み、運命を、未来を開いてください。

☆身を修めることで道は開く

前回の命改編は、運命を変える方法というより、運命の「仕組み」についての解説です。

これだけでは、機械の説明書を読んだだけで、「使いこなし方までは分からない」という様な状態だと思います。

では、いかにすれば運命は変わるのか？

思う様に生きようとした時、そこにはいくつかの「壁」があると思ってください。

これを「暮らしの壁」「人生の壁」「運命の壁」なんて呼んだりしているわけですが、これらを突き破らないと、殻に閉じこもった様な不自由な人生になってしまうのです。

これらの壁を破るのに、必要なことがあります。

それが、修道編の名前にもある様に、「道を修める」ということ。

身を修めることで、道は開けます。

徳の高い人になって、人間・人生・世界の全てを味方につければ、壁の方から門戸を開いて、道を用意してくれるでしょう。

つまりは、学問修養を積んで、徳（良い行い）を積める人になれば、道は開けるのです。

なので、今回の修道編では、

- ・ 徳を積むと道が開ける理由とは？
- ・ 徳を積むための学問修養とは？
- ・ 徳で道を開くための原理原則とは？

これらの3点について、解説していきましょう。

ではまず、積んだ徳の高さで人生の味の良し悪しが決まる、ということから。

☆未来は徳積みへの報いで決まる

「因果応報」という言葉は知っているでしょうか？

これは、物事には原因と結果があり、自分の行い（原因）に対する報い（結果）が必ず返って来るといった意味の言葉です。

つまり、良い結果を生む行いを積み重ねていけば、良い未来になるし、それが悪い行いなら、悪い未来になるという訳ですね。

では、周りの人や物を大切にすると、乱暴に扱うのでは、どちらの方が良い結果を生むのでしょうか？

大切にされた方は、生き生きしていきます。

乱暴に扱われた方は、壊れていきます。

邪魔な人や物の存在をスイッチ一つでこの世から消すことができるなら、まだ話は別でしょう。

しかし、実際にはあなたの敵となる人が増え、物は使い物にならなくなります。

逆に、人や物を大切にしていれば、それらがみんな、あなたの見方をしてくれる様になるのです。

その先に開けていくのが道。

つまり、人生は、自分がどれだけ高い徳を積んだか？で決まります。

良い行いを積み重ねた分、「良い味の人生」になるのです。

これは逆に、自分にとっての敵が多い分、そこに立ち足はだかる壁の数も多い、と捉えることもできますね。

それが壁になってしまうのは、自分が徳の高い生き方をしていないからです。

要するに、まだまだ達していない、「達者では無い」訳ですね。

ですから、僕らはできるだけ高い徳を積める様に成長しなければいけません。

そのために、日々「学問修養」を積み重ねる必要があるのです。

☆学問修養で徳の高い人になる

「修養」というのは、学問によって高い人格を身につけることを指します。

人生の良し悪しを学んで、結局は徳を積んだ方が
良いということを悟るのです。

- ・人として、どうあるべきか？
- ・人として、どう生きるべきか？

この2つを学んだ時、その中心となるのは、やはり「徳」で、それが道を開くカギとなることは、もう話しましたね。

人は、徳を積める人格者であるべきだし、徳を積みめば、周りの全てが自分の味方になっていくのです。

他人に貢献し、人類に貢献し、地球に貢献し、宇宙に貢献していけば、最後はこの世界そのものが、あなたの見方となります。

その法則と、法則に沿った生き方を学び、日々実践を繰り返して、人格だけでなく能力を磨いていく。

これが学問修養ということです。

では、人格が高い人、「達した人」とはどのようなものなのか？

学問修養の道標を載せておこうと思います。

☆人に宿る3本の成長ベクトル

達した人格者とは、人に宿る3種類の成長ベクトルが、それぞれ一人前と呼べるレベルにまで伸びている人のことを指します。

3種類というのは、以下の3つ。

- ・徳（人徳）
- ・才（才能）
- ・色（性格）

色に関しては、命改編で話した「上品」を繰り返して、自分が持って生まれた特性を良い方向へ育て、活かしていくことが必要です。

なので、やることが人によって変わって来るところがあり、ここでは解説を割愛します。

占いなどを参考にして、長所・短所、改善策を学ぶと良いでしょうね。

では、残りの徳と才の成長ベクトルですが、これを図式化すると、例えばこんな風になります。

徳（質、愛情、精神的モラル）

↑ 目的	次元	動機	状態	説明	課題
立命	尊行	徳	絶	・命より大切な活動をする ・それぞれの道を見つける	共栄
	道義	志	落	・徳の高い志に目覚める ・他人や社会に貢献する	調和
自律	幸福	夢	愛	・精神面から調子を整える ・個人的な幸福を体現する	思慮
	健康	性	努	・肉体面から調子を整える ・健康的な生活をする	感覚
	生活	憧	鬼	・生活をやりくりする ・衣食住を整える	習慣
基礎	学問	好	遊	・集中的に学問をする ・人間、人生、世界を学ぶ	けじめ
	享受	甘	怠	・人の温もりを知る ・愛情と知恵を授かる	しつけ

才（力、知恵、実質的モラル）

人徳の高さ（↑）は7段階（赤字）に分けて捉えることができ、その段階毎にそれぞれ才能ベクトル（→）が伸びているイメージです。

1番下の「享受」は、甘えがち、怠けがちですが、その中で人の温もりや愛情、知恵を授かる赤ん坊の様な段階です。

課題の「しつけ」をしてくれる人がいない場合、自分でしつけをするための習慣（才）を身につけなければいけません。

2番目の「学問」は、好き嫌いが激しく、遊びがちですが、その中で一生懸命学んだり、基礎的な才能を磨く幼児の様な段階です。

課題の「はじめ」をつけてくれる人がいなければ、享受の段階と同じ様に、自分ではじめをつける習慣（才）を身につけなければいけません。

ここまでが、人格を形成する「基礎」の2段階ですね。

3番目の「生活」は、憧れによって行動しがちで、心を鬼にすることがありますが、その中で衣食住を学び、生活をやりくりできる様になります。

課題の「習慣」というのは、生活を正す習慣という意味で、これを身につけるのにも才能を磨かなければいけません。

4番目の「健康」は、食欲や性欲などの肉欲に溺れがちですが、努力（特に運動や勉強）をして、肉体面から健康になっていきます。

課題である「感覚」を磨くには、それだけ研ぎ澄まされた、健康的な生活をする才が必要です。

5番目の「幸福」は、夢を追いがちですが、愛情に溢れ、個人的な幸福を実現したり、精神面から健康になったりします。

課題は「思慮」で、気持ちばかりでなく、相手の立場で考えるための才が必要です。

ここまでが、人間としての「自律」を果たす3段階ですね。

6番目の「道義」は、志が芽生え始め、貢献活動をし、自分の居場所や役目に落ち着きますが、正義感が強く、人をいじめがちです。

課題の「調和」を保つには、お陰様精神やお互い様精神を養うために、物事の背景を理解できる才が必要になります。

7番目の「尊行」は、徳の高い状態に達して、この上ない状態（絶）であり、自分の人生を払ってでもやりたいことがあります。

課題の「共栄」を果たすには、それだけ部分的にではなく、全体的な繁栄を追求した徳積みをする才が必要です。

ここまでが、自分の道を創造する「立命」の2段階ですね。

7段目（尊行）の課題解決まで達した状態が、つまり達者であり、人格の高い状態だと言えます。

ここまで来れば、共栄の文字通り、大げさに言えば「宇宙の繁栄」を意識した生活になる訳ですから、世界が味方してくれる様になります（危機管理が必要無くなるわけではありません）。

そう考えると、7番目の尊行まで達していない限り、その人生には「世界という分厚く広い壁」が存在することになりますね。

つまり、5段目の幸福だろうが、6段目の道義だろうが、とても不自由なわけです。

事実、世間を気にしないとやっていけない様なら、生き辛いと思いますし、それは人徳が低い証なんですよ。

だから、自分がどれだけ達しているか？ではなく、「自分がどれだけ達していないのか？」で考えないといけません。

昔の日本人が別れ際に「達者でいるよ」と言っていたのは、そのせいでしょうね。

とにかく、各段階のテーマを克服するために、才を身につけ、実践を繰り返していけば、段階毎の報酬があり、その悟りが人徳を高めてくれます。

さっきの画像はどこかに保存でもしておいて、たまにチェックしてみると良いですよ。

☆ 「暮・生・命」の壁を突き破る

では、最後の「道が開ける原理原則」です。

人生を創造し、自分の道を歩むには、初めに話した様な「3種類の壁を突き破る」必要があります。

- ・暮らしの壁
- ・人生の壁
- ・運命の壁

↓暮らしを変えるレベルの徳積み

↓人生を変えるレベルの徳積み

↓運命を変えるレベルの徳積み

こんな感じで、本気で運命を変えたければ、それだけの徳積みをすれば良いだけなんです。

その徳の高さだけ、周りの人々が応援してくれます。

ただ、それを実際にやろうとしたら、何をどうすることが人々のためになるのか？を学んだり考えたりしないといけませんし、行いを達成するための才能を磨く必要もあります。

つまり、運命を変えるレベルの徳積みというのは、それだけ達した人でないと、なかなか意図してできるものではないのです。

ですから、自分が達者（尊行以上）でないうちは、あまり意固地になって徳を積もうとしない方がいいでしょう。

でないと、周りの人に多くの迷惑をかける結果となります。

器用な人なら仕事をテキパキこなすこともできますが、自分独自の道という話になりますと、草の根分けて生きる側面が強いです。

大衆レストランの接客スタッフみたいにはマニュアルが存在しない場所で、職人氣質でやっていく。

それがつまり、道であり、人生の創造、立命なのです。

つまるところ、まずは学問修養を重ねることに専念してください。

そして、7段目の「尊行」に達した人になることを目指しましょう。

人には、精神、思考、行動、現実と、4つの側面がありますから、それらが全て尊行に達した時に

は、既に徳を積みながらの生活になっているはず
です。

自分が整った生活をすれば、周りの人も気持ち
が良いし、自分が健康的な生活をすれば、それだけ
健康的な社会に傾きます。

それと同じで、自分が幸せなら、それだけ世界が
幸せに傾きますし、自分が道義に目覚めたら、そ
れだけ影響を受けて正義感のある人が増えます。

最後に尊行まで達すれば、貢献的な生活態度の影
響が及ぶ範囲は広大になり、大勢の人が救われま
す。

瓶一本の蜂蜜を買う時だって同じです。

↓生活が豊かになる蜂蜜を食べる（生活）

↓健康的になる蜂蜜を食べる（健康）

↓幸福になれる蜂蜜を食べる（幸福）

↓誰かが救われる蜂蜜を食べる（道義）

↓大勢の人が救われる蜂蜜を食べる（尊行）

それが納豆なのか、味噌や醤油なのか、お酢やみりんや日本酒なのか、梅干しや糠漬け、お茶なのか。

恵まれたことに、日本の文化には、徳の高いものが多いです。

つまり、調和が取れていて、多くの人々や生物のためになる文化だらけであるということ。

それらを求めて学び、暮らしを変え、人生を変え、運命を変えるほどの徳を積みましょう。

☆最後に

修道、「道を修める」とは、「身を修めて道を開く」ということ。

そして、「身を修める」とは、学問修養をして「人徳を高める」ということです。

本当なら、人徳が高まれば、道は勝手に開けます。

なのに、学問修養を怠って「開け～！開け～！」と念じている人は、目上の人にゴマをすりませます。

要は、うわべ繕いの「嘘つき」になって、人を騙すということ。

これが本当の、「開けー、ゴマ！」ですね。

今回は、人の成長段階を簡単に解説しましたが、これが分かると、他人の内面が見えてくるようになります。

例えば、人によって抱える課題が違うということは、それだけ与えてあげると良い知恵も変わってくるのです。

だから、人やコミュニティーに対して徳を積む場合、その対象が一体どの段階でつまづいているのか？を察知してあげるといいでしょう。

これも一つの才ですね。

それでは、徳・才・色、それぞれ高めていきましょう。

それらがあなたの宿命と出会った時、あなただけの道が開かれ始めます。

あなただけの特別な人生です。

その儚い（はかない）時間を感じる味わい、ワビサビを大切にしてくださいね。

次は活力を養うための「養気編」です。

お楽しみに。

ありがとうございました。

金原昌史

→バンカラ道に戻る